

「秋の北極圏旅行記 (14)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka



車掌さんは女性の方で、車掌さんがホームにいる間は列車は絶対に発車しないので、安心してホームをウロウロできます。



乗降口近くに「サボ (行先表示板)」が重ねてあったので、ちょっと拝見すると「ルーレオ行」「ストックホルム行」がありました。ストックホルム行きの夜行に使われることもあるようです。



(2000 年 12 月撮影)

キルナの近くのユッカスヤルビ (ユッカス湖) には、有名はアイスホテルがあります。湖の氷を切り出して、毎年ホテルを造るのです。人気の観光地です。



車両の案内板です。面白いのは、車両中央付近に半個室の「グループルーム」があることです。グループルームには、アビスコから登山と思われる団体が入っていましたが、そこに知らずに予約した日本人女性客が一人いて、ちょっとかわいそうでした。



キルナを過ぎると針葉樹の森は消え、車窓はますます荒涼たる景観になってきます。道は国道 E10 号線で

す。「E」がつくと、国際道路という意味です。



列車の中で何枚か水彩を描きました。重量級の機関車や貨車が通る路線なので、線路の路盤が強固で線形も良く、旅客列車もほとんど揺れないのです。



やがて右車窓に「トーネトレスク（トーネ湖）」が見えてきます。氷河が造った、非常に細長い湖です。



地図の左側（西側）の水はノルウェーのフィヨルド（海）です。右の水がトーネ湖です。スカンジナビア山脈がもう少し低ければ、トーネ湖にも海水が流れ込んで、長大なフィヨルドになっていたでしょう。



アビスコ中央駅に到着です。ここにはモニカという友人が住んでいますが、今回は寄れませんでした。



（2004年1月撮影）

アビスコはスウェーデン最北の街で、同時に屈指のオーロラ好観望地です。写真は私が撮影したオーロラの中でも、最も雄大なものです。



車掌さんは小さな駅では乗り遅れがないか確かめたり、車内検札をしたりと、大忙しでした。駅を発車すると「〇〇駅から乗った方いますか〜？」と、大きな声で全部の車両を回り、頼もしいなあと思いました。